

## ☆☆図書室だより☆☆ ☆第26号☆

## ☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆



2017年 4月(後期)～ 2017年 8月(前期) 新規登録の書籍をご案内しま

書名 (購入書)	著者名など	出版社	分類シール
日本基督教団 戦争責任告白から50年 その神学的・教会的考察と資料 新教コイノーニア33	『時の徴』同人 編	新教出版社	[ 茶 198.321 To ]
平和の訴え	岩波文庫 青612-2 エラスムス 著 箕輪三郎 訳	岩波書店	[ 黒 319.8 Era ] (裏へつづく ⇐)

## ご紹介 ...



古屋 治雄 主任牧師 より

## 『信仰の手引き 日本基督教団信仰告白・十戒・主の祈りを学ぶ』

日本基督教団宣教研究所 編 [ 橙 193.6 Ya ]

## 『日本基督教団 戦争責任告白から50年 その神学的・教会的考察と資料』

新教コイノーニア33 『時の徴』同人 編 新教出版社 [ 橙 193.6 Ya ]

以下の二冊を紹介します。

『信仰の手引き 一 教団信仰告白・十戒・主の祈りを学ぶ』(2010年 教団宣教研究所発行)

教会の伝統の中にいくつかの「信仰問答」があります。信仰の基本的なことから問答形式で展開する内容です。この「手引き」は、それらの伝統を継承し、また日本基督教団の諸教会が様々な現状をふまえつつ積極的に伝道を展開していくために出版されました。現在日曜求道者会でこれをテキストにして学んでいます。

今年は私たちの日本基督教団が「戦争責任告白」を表明してから50年経過しました。その中で『日本基督教団戦争責任告白から50年 一 その神学的・教会的考察と資料 一』(新教コイノーニア33)が発刊されました。阿佐ヶ谷教会牧師としてまた教団の責任を負われた大村勇牧師がこの「告白」が出される教団の歴史に関係しています。日本社会の中でキリスト者として生きる私たちが改めてこの歴史を神様の前で顧みる責任があります。

(参考図書)

『日本基督教団史資料集 第4巻 第5篇 日本基督教団の形成 (1954～1968年)』

日本基督教団宣教研究所教団史料編纂室 編纂 日本基督教団宣教研究所 発行  
⇨ 教団の「戦責告白」の原文、制定の経緯などを調べたい時の参考資料に。

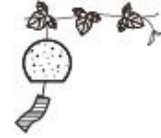
『大村勇説教集 主を求めよそして生きよ』

阿佐ヶ谷教会創立五十周年記念事業委員会 編 キリスト新聞社

『大村栄説教集 神の言葉を聞く時一阿佐ヶ谷教会と共に』大村栄 著

阿佐ヶ谷教会・大村栄牧師説教集編集委員会編集 日本基督教団阿佐ヶ谷教会発行  
⇨ (P.120～)「たとえ過去に真実を知らされなかったとしても、あるいはその時代に生まれていなかった世代の者も、それらを新たに知って記憶に刻んでいく勇気が必要だと思います。」(P.123)「...私たちは...救われていることを決して忘れてはなりません。」  
大村勇・栄牧師の韓国訪問、説教と共に、勇牧師の「戦責告白文」作成のことが紹介されています。

(教会員の鑑賞文より)



## 『平和の訴え』

エラスムス 著

岩波文庫 612-2

[黒 319.8 Era]

自然は、異なる種族同士も協調するように造られている。人間もまた互いに和合し、平安に暮らせるように造られているとエラスムスは断じます。ましてやキリスト者がキリスト者を貶め、戦争をけしかける愚かさを痛烈に批判します。どの君主も、どの司祭も、どの宗派教派も、聖書を騙って戦争を正当化することはできない。そんなものはただの屁理屈だと一蹴します。キリストに立ち返れと、真のキリスト者であれと、聖書を曲げずにまっすぐ読むべきだと切々と語るのです。

本書が時を経て現代もなお雄弁に平和を語るとすれば、それこそエラスムス本人ならばなんと言ったであろうか。人間の変わらぬ愚かさ嘆きつつ、きっと次のように語りかけるだろう。「イエスは、ご自身を羊飼いと呼ばれ、その弟子たちを羊と呼ばれましたね。かつて誰がいったい、羊と羊が戦闘を交えるのを見たでしょうか？」 (m.i.)



## 『健康な教会へのかぎ』

リック・ウォレン 著 いのちのことば社

何年か前に、キリスト者として成長していくためには何をしたらよいか具体的にわからず、『霊的成長をもたらす4つの習慣』という同著者の書をテキストに使用し地の塩会の修養会を行いました。リック・ウォレン氏は米国のサドルバック教会という大変大きな教会の牧師で、とても影響力のある牧師の一人でもあります。『人生を導く5つの目的～自分らしく生きるための40章～』という書も大変有名です。健康な教会とは何か、健康な教会にするために何が必要なのか、沢山の示唆が書かれています。「教会が自らの目的を明確にする」ことの重要性を説いていて、なるほどと思うことばかりです。そしてこのすべての示唆や方法の根底には、神様への絶対の信頼と信仰、そして、御言葉を土台にし、実行している教会の姿が読み取れます。ぜひ多くの人に読んでもらいたいです。(NT)

## ‘ 宗教改革500年記念 ’ ~ II ~

書名 (購入書)	著者名など	出版社	分類シール
キリスト教綱要 改訳版 第1編・第2編	ジャン・カルヴァン 著 出渡辺信夫 訳	新教出版社	[茶 198.386 Ca 1]
// 第3編	//	//	[茶 198.386 Ca 2]
// 第4編	//	//	[茶 198.386 Ca 3]
宗教改革小史 コンパクト・ヒストリー	K.G.アッポルド 著 徳善義和 訳	教文館	[赤 192.3 A]
パウロ 十字架の使徒	岩波新書 1635 青野太潮 著	岩波新書	[橙 193.71 A]
カトリックとプロテスタント どこが同じでどこが違うか	徳善義和 他 著	教文館	[茶 198.2 To]
痴愚神礼讃 ラテン語原典訳	中公文庫 エラスムス 著 沓掛良彦 訳	中央公論	[黒 992.4 Era]
ルターと賛美歌	徳善義和 著	日本基督教団出版局	[茶 196.7 To]
書名 (寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
プロテスタンティズム 宗教改革から現代政治まで	中公新書 2423 深井智朗 著	中央公論社	[茶 198.3 Fu]
図説 宗教改革 ふくろうの本/世界の歴史	森田安一 著	河出書房新社	[茶 196.7 Mo]
クラーナハ《ルター》イメージの模索	マルティン・ヴァルンケ 著 岡部由紀子 訳	三元社	[茶 196.7 Wa]

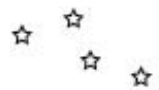
# 『プロテスタンティズム』 (中公新書 2423)



深井智朗 著 中央公論社 [茶 198.38 To]

西欧の近代はルネサンス、宗教改革、大航海時代から始まったとされる。中世から時代は近代に移った。2017年は宗教改革500年として関連の書籍が沢山出版されている。この本もその一冊である。

イエス様がキリスト教を創始しようとしたわけでないように、ルターも当初「宗教改革」などを意図してなかった。ただローマ教会の贖宥状(免罪符)に対して疑問を呈したことから世界が動いた。英語の「Reformation」を日本では「宗教改革」と訳したがただ「改善」くらいの感覚か？ プロテスタントの呼称は、キリスト信仰の基本は聖書によるとするルターとその支持者たちを、ローマ教会側はプロテストするものたちと呼んだことによる。しかし、聖書解釈をローマ教会の解釈のみに従うカトリックと異なり、プロテスタントは信仰は聖書のみによるとする。そこで様々な読み方を生じ、教派、分派を生んでいった。ヨーロッパからアメリカで様々な発展した。それは日本におよぶ。この本は「プロテスタンティズム」の概観、歴史、現状を記す。(m)



## 『コラールのあゆんだ道 ルターからバッハへの二百年』

長與恵美子 著 東京音楽社 [茶 198.7 Na]

宗教改革の主人公であるマルティン・ルターは、「神はわがやぐら(讃美歌267)」の作詞・作曲者でもあり、音楽家としても知られています。

本書の前半では、聖書の翻訳を通じたルターの「言葉」にこだわる姿勢と、会衆が自らの言葉で賛美することのできる歌としてのドイツ語の会衆賛美歌(コラール)が誕生するまでを描きます。後半は、ルター自身の作品を含むプロテスタント・コラールや詩編歌の成立の背景を作品ごとに簡潔に記し、バッハの時代にいたるまでの賛美歌を解説します。

本書には数多くの譜例が掲載されていますが、その中には「讃美歌」や「讃美歌21」には収録されていない作品も含まれています。コラールの歌詞には著者自身による独自の訳がつけられており、日本語で歌詞の内容を確認することのできる資料としても、たびたび参照したくなる本です。

読後も賛美歌が頭の中で鳴り響き、余韻を楽しんだ読書体験でした。(YM)



## 『クラナハ《ルター》イメージの模索』

マルティン・ヴァルンケ 著 岡部由紀子 訳 三元社 [茶196.7Wa]

ルターの肖像画(版画と油彩)は何種もあり、挿絵と共に、宗教改革変遷に大きく関わっている流れが紹介されています。

(P.106~) 版画は「.....すばやく制作に取りかかれて、その成果を一瞬に大量に複製できる...」とメディアの役割をし、「...プロテスタントの教会組織が整備されていく中で、もはやルターの肖像版画の持つ積極的なプロパガンダとしての役割は終わり...」、そして油彩は「市民の服装に近い上着を着て、ベレー帽を被った姿が、...新しい肩書きとしての‘宗教改革家’ルターを永遠に顕彰する図式となる」と権威や親しみを表しました。

そのような変遷をパロディ化して、旧教側から表された『七つの顔のルター』、またそれに対抗してプロテスタント側から『七つの頭を持つ法王の獣』など、面白いです。(Ri)

## ～ 二階のラウンジから ～

教会の二階への階段を上るとベンチとテーブルがおかれたスペースがあります。もし暗かったら壁のスイッチで電気をつけてください。そこに新聞ラックが置いてあり、『教団新報』『キリスト新聞』『こころの友』がぶら下がっています。さらに『信徒の友』の最近の三か月の三冊が置いてあります。これらの新聞や雑誌は自分で買ったり、もったりしている方も多いでしょうが、ちょっと見てみたいと思ったら寄ってみましょう。

### ☆ 『教団新報』は

日本基督教団が隔週で発行する機関誌です。教団の考え方、動向やニュースが載せられています。

### ☆ 『信徒の友』は

同じく日本基督教団が信徒向け発行する月刊雑誌です。7月号では亡くなった内藤留幸牧師へのインタビュー記事、さらに巻頭カラー頁の「我が家の“わんにゃん”」に加藤真衣子牧師の猫ちゃんたち、蘭ちゃん、陸ちゃんの写真も大きく載っています。



### 『こころの友』も

同じく日本基督教団が信徒向けに毎月出しているタブロイド判4ページのカラーの新聞、1ページ目に毎回紹介される魅力的な信徒の方々の笑顔でおなじみです。他に全国の各地の教会や、様々な活躍をされている方々の紹介、レポートなど気軽に読める新聞です。昨年度までは教会でも多数購入して毎月配られていましたが、教会財政のひっ迫から配布数も減りました。頂けない時はここでご覧ください。

### ☆ 『キリスト新聞』は

キリスト新聞社が週刊で発行する新聞です。プロテスタント、カトリックを問わないキリスト教の世界さらには仏教などの他宗教の世界のニュースが載っています。また大手新聞などではなかなか取り上げられないキリスト教、宗教関連の新刊書籍の紹介も豊富です。

これらの新聞、雑誌はキリスト教世界などの動向を知るための手引になります。是非目を通して、様々な考え方、他教会や、どのような牧師さん、先生がいらっしゃる、そして信徒がいるのかを広く知ることができます。礼拝に出席されたあと、しばし二階のラウンジのベンチでニュースをお読みください。(m)

### 『キリスト新聞』連載記事(2017年6月17日付まで)より…感想



#### 『沈黙』への道、『沈黙』からの道 — 遠藤文学を読み解く 金 承哲

遠藤周作作品が毎回ひとつずつ紹介解説され、著者が生涯にわたって描こうとしていたことが考察されていました。この時期、映画『沈黙』を観て、日本で生きて信仰を持つことに「弱さ」「罪」「寂しさ」など考えさせられたので、他の遠藤作品を合わせて知ると心が整理されていくようで、今後読んでいきたいと思いました。(Ri)

## 図書寄贈ご希望の方へ

……まず「寄贈申込書」提出をお願いします。

(阿佐ヶ谷教会図書室は寄贈書を受け入れております。しかし、収納スペース、管理、配送などの都合により、最低限のきまりを設けていますのでご協力お願い致します。)

- ① 寄贈申込書にご記入ください。(図書を持ち込まれるよりも事前に、この用紙提出によって図書の内容をお知らせください。)(ご寄贈理由である推薦文・読書感想文をいただけることを希望します。)(用紙は図書室内に設置してあります。)
- ② 所定の手続きに従って選書いたします。

●阿佐ヶ谷教会図書室は、図書を通して、みなさまの信仰の証を共有できる交わりを求めています。しかし、ここは大きな研究機関や大公共図書館ではありませんので、希少価値がある本でも重複したり痛みが激しかったりするだけで残念ながら管理していきません。みなさまと共に信仰を育んでいける阿佐ヶ谷教会ならではの図書室を作っていけることを望んでおります。